

通船川 栗ノ木川ルネッサンス



【水質検査】

▼活動の目的

川から学ぶ「子ども環境会議」は、川は、そこに暮らす人々にしかない地域の様々な歴史があり地域の伝統文化を通して生活学（地域学）がありました。しかし、高度経済優先社会がもたらした生活環境の変化に伴い地域の自然環境は失われ、先人から伝えられた地域学の一部に「子どもは地域の目で育む」の習慣も失われました。「子ども環境会議」は、複数校が身近な環境をテーマに住民が生活の知恵として伝えた歴史・自然環境・地域文化等（地域学）の再生を計り、持続可能な学校と地域を結ぶコミュニティの創出を計り、安心・安全な地域社会の構築を目指しています。

▼活動の内容

校区内の川は全国でも有数な汚い・臭い・危険な汚染河川（通船川、栗ノ木川）から「身近な環境」をテーマに住民参加型で体験型総合学習（小学校）をおこない、子どもの目線で発見した宝物や環境汚染の実態を「子ども環境会議」のなかで大人（家族等）に発信し関心を高める。



調べたことは表にしました。



閘門を体験。

▼活動の効果

子どもたちは、活動を通して

- 川に捨てられた「ゴミ」の多くはリサイクルが出来ることを発見した。
- 水の汚染は我が家の排水にも注意する。(油はふき取ってから洗う)
- 子ども達が調べた情報を聞き、住民は、かつての川を思い出し協力的になった。
- 住民からの川への情報が増えコミュニケーションが構築された。
- 学校では「スクールサポーター教室」を設け、児童と住民の意見交換の場が出来た。

▼苦勞した点・反省点

複数校が取り組んだ「子ども環境会議」は、始め、各校の競争学と受けとられ、先生から反論があり実現が不可能に近かったが、ある学校の先生の元同僚であった関係で話しがまとまった。

しかし、会議の際、先生方が出席しやすくボランティアでなく出張扱いにするため公民館長から校長に依頼文を出してもらい認められた。

派生店、公民館長の依頼文書手続きの説得に苦勞した。